

非文字資料研究

The Study of Nonwritten Cultural Materials

News Letter

2007.9

No.17

CONTENTS



Interview 1

5班 実験展示班代表者 中村先生に聞く

実験展示班の企て 3
「あるく 身体の記憶」について

Talking about the Autumn Exhibitions; Its Theme, "Walking"

中村 ひろ子 NAKAMURA Hiroko

Interview 2

6班 理論総括班代表者 的場先生に聞く

プロジェクトの総括にむけて 9

A Summary of Our 5-year-project

的場 昭弘 MATOBA Akihiro

Interview 3

1班 『日本近世・近代生活絵引』の編纂班代表者
田島先生に聞く

絵引作業の舞台裏 15

Some Additions to My Report in the Last Issue

田島 佳也 TAJIMA Yoshiya

研究エッセイ

ESSAY

都市景観「いにしえのソウル」の復元 18

The Restoration of Seoul's Landscape

富井 正憲 TOMII Masanori

研究エッセイ

ESSAY

文久2年の「はしか絵」 20

Some Pictures, "Hashika-e" from 1862 as Historical Materials

富澤 達三 TOMIZAWA Tatsuzo

コラム Column 22

鳥取県において民具調査を始めて

櫻村 賢二 KASHIMURA Kenji

コラム Column 23

「家族」と「故郷」

呉 毓華 WU Yuhua

2006年度外部評価と対応策 24

An Auditors Report of Our Project and Our Response to It

委員の評価（要旨）

外部評価に対する対応策

主な研究活動 28

受贈資料一覧 29

彙報 31

Information 32

表紙説明



今回の表紙は、巻頭インタビューの秋の展示テーマにあるように「あるく」。友人の猿まわしは、いい芸猿を育てる第一歩として、まずきれいな姿勢での「直立二足歩行」を調教すること、と話していました。かつて私が所属していた在野の研究所の機関誌は「あるく みる きく」というタイトルでした。この「あるく」とは、太陽のもとにとび出し自分の知らない世界にぶつかってみることを意味しています。動詞は普遍性の強い言葉ですから、逆に様々なイマジネーションを誘発します。11月の展示はどんな世界を見せてくれるのでしょうか。（香月 洋一郎）

